

第5単元 比①

| 問題番号 | 配点 | 解 答(許容) | 評価規準 | つまずきと指導の手だて |
|------|-----------------|--|--------------------------------|--|
| ① | ① 20 (各5) | 式 $10 \div 2 = 5$ 、 $3 \times 5 = 15$ ($3 \div 2 = 1.5$ 、 $10 \times 1.5 = 15$) 答 15mL | [知技]比に着目して、未知数を求めることができる。 | 表を縦に見る場合と横に見る場合が考えられる。横に見る場合は比の値に相当する。 |
| | ② | 式 $12 \div 3 = 4$ 、 $2 \times 4 = 8$ ($3 \div 2 = 1.5$ 、 $\square \times 1.5 = 12$ 、 $\square = 12 \div 1.5 = 8$) 答 8 mL | | |
| ② | ① 10 | ① ア 3 イ 3 ウ 27 (完答) | [知技]比の相等関係を理解している。 | 両辺の前項どうし、後項どうしの割合が等しくなっていることを確認させる。 |
| | ② (各5) | ② ア 3 イ 3 ウ 8 (完答) | | |
| ③ | 10 | ウ (と) エ (順不同、完答) | | |
| ④ | ① 10 | ① $\frac{2}{5}$ ② $\frac{1}{3}$ | [知技]比の値を求めることができる。 | 小数、分数で表された比でも前項÷後項で比の値を求めることができることをおさえる。 |
| | ② (各5) | | | |
| ⑤ | ① 10 | ① 1 : 3 | [知技]比を簡単に行うことができる。 | 前項と後項に同じ数をかけても、前項と後項を同じ数でわっても、比は変わらないことを、具体的に示して確認する。その上で比を簡単にするの意味や未知数の求め方を考えさせる。 |
| | ② (各5) | ② 9 : 10 | | |
| ⑥ | ① 20 (各5) | 式 $10 \div 2 = 5$ 、 $15 \div 5 = 3$ 答 3 | [知技]比の相等関係を利用して、未知数を求めることができる。 | 比例式を立てるとき、縦と横の比と長さに対応するように注意させる。 |
| | ② | 式 $16 \div 4 = 4$ 、 $12 \times 4 = 48$ 答 48 | | |
| ⑦ | 10 (各5) | 式 横の長さを x cm とする。 $4 : 5 = 48 : x$ $x = 5 \times 12 = 60$ ($48 \times \frac{5}{4} = 60$ も可) 答 60cm | [知技]比の相等関係を適用して問題を解くことができる。 | |
| ⑧ | 10 (各5) | 式 $1000 \times \frac{3}{8} = 375$ 答 375円 | | 式を考えると、全体に対する妹の割合に気づかせる。 |

第5単元 比②

| 問題番号 | 解 答 | 評価規準 | つまずきと指導の手だて |
|------|--|--------------------------------------|---|
| ① | ① 1400 ② 7 | [思判表]比や割合を用いた問題解決の仕方を、図や式を用いて説明している。 | 牛乳、コーヒー、コーヒー牛乳の3つの割合を表す数を図で確かめさせ、5年の割合や比を用いればよいことをおさえる。 |
| | ③ $\frac{5}{7}$ ④ $\frac{5}{7}$ ⑤ 5 ⑥ 200 | | |
| ② | 〈図〉 ㉠、〈式〉 ㉡ | [思判表]等しい比の作り方を図と式の両方で考え、説明している。 | 前項と後項に同じ数をかけることで、等しい比をつくることをおさえる。 |

▶ 思考力・判断力・表現力の評価

| 評価 | A | B | C |
|-----|------|------|------|
| 正答数 | 5問以上 | 4～3問 | 2～0問 |

▶ 主体的に学習に取り組む態度の評価

| 評価 | A | B | C |
|--------------|---|---|------------------------------------|
| 選択内容 記述内容 | 3項目とも意欲的であり、感想とさらに学習したいことの2つの観点で書かれている。 | 3項目ともおおむね意欲的であり、感想とさらに学習したいことのどちらかの観点で書かれている。 | どの項目も消極的であり、感想やさらに学習したいことが書かれていない。 |